

＜大雪＞この2月中旬は立春というのに2度も大雪に見舞われました。雪の生活に慣れないわれわれにとっては萬（よろず）が大変です。とはいえ白銀の富士を背にした雑木林の雪景色を見られるのは幸運でもあります。灰褐色の冬枯れの世界を前にしたときより富士が近くに見えるように思います。



＜宴の後＞14日(金)からの雪はとりわけ多く

降ったため週明けのビオトープはまだ銀世界でした。雪面には見慣れない足跡が無数というほど残されていました。ほとんどは水掻きの付いた3本指の跡です。普段池を訪れているマガモたちがどうやらお尻を振りふり宴



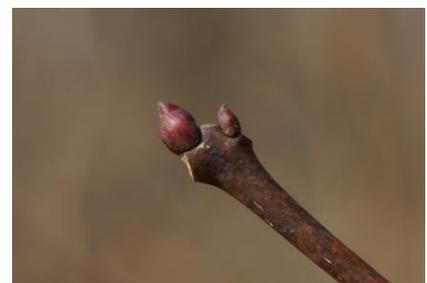
＜マガモの足跡＞



＜ハクビシンの足跡？＞

行った跡(後)のようです。もう一つ、獣の足跡が残っていました。右上の写真のように5本指ですからハクビシンでしょうか。キャンパスの別のところではタヌキの足跡も見られました。人の気配のしない雪の中できっとお腹を空かせて出てきたのでしょうか。

＜ロボット恐竜＞“近づく春の気配は？”とビオトープを見て廻ると新たな発見があります。木々の芽の色や形も面白いですね。まだまだ寒さに身を硬くしている芽もあれば少し膨らみ出している木の芽もあります。そんな中、ゴンズイやクサギの芽が恐竜の爪のように見えてきました。

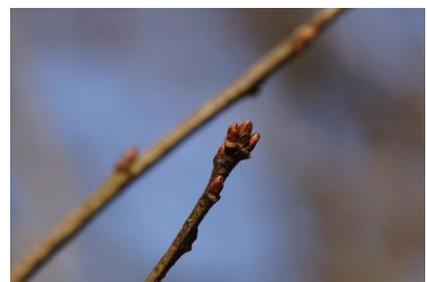


＜ゴンズイの芽＞



＜ニシキギの芽＞

ところがどう見ても生き物には見えないような木の芽がありました。左の写真はSF映画にでも登場しそうなロボット恐竜の脚に見えませんか。実は昨春から伸びたニシキギの枝とその先に付いた芽です。刀の刃のように見える翼(4枚付いている)が如何にも人工的な感を抱かせます。ところでこの2カ月ほど“新鮮な緑の欠乏症”気味ではなかったでしょうか。いささか守備範囲から逸脱しますがビオトープ近くのカワズザクラの花芽(左写真)を。ほんのりと緑が見えます。



＜クサギの芽＞



(文と写真：松本正勝)